

神戸女子大学古典芸能研究センター開設20周年記念展示 夏

写真展 「沖縄の祭祀 1978-2017」

会期: 令和3年7月17日(土)～8月1日(日) 休園日: 7月29日(木)

時間: 午前10時～午後4時

会場: 神戸市立須磨離宮公園内 和室

令和3年、神戸女子大学古典芸能研究センターは開設20周年を迎えました。それを記念して、神戸市立須磨離宮公園において、一年を通じて季節ごとに所蔵品を中心とした資料展を開催します。

2回目となる夏の展示は、古典芸能研究センターがWeb上で公開している「沖縄祭祀資料データベース」から、沖縄のさまざまなお祭りの様子を記録した写真を展示します。

このコレクションは、平成14年に沖縄祭祀研究会（甲南大学地域文化研究会内、沖縄祭祀に関する研究会）から寄贈された、昭和53年から平成10年までの祭祀の調査記録（写真8,500枚余りとフィールドノートなど）です。収録祭祀は30種類35件に及び、地域も、北は伊平屋島、南は波照間島、西は西表島と広範囲にわたっています。センターでは、これらの写真をすべてデジタル化した上で、フィールドノートの情報とあわせて整理をして、平成19年に「沖縄祭祀資料データベース」を完成させました。このデータベースでは、祭祀日程表を参照しながら写真を見ることができます。調査時の音源や映像も順次デジタル化を進め、段階的に公開しています。一方、現地での新たな追跡調査や資料収集も行い、データベースの更新・充実に努めています。

今回は、こうした最近の成果も併せてご覧いただきます。また、祭祀にともなう行われる「ミルク行列」や「競漕（ハーリー）」「獅子舞」といった、沖縄ならではの奉納芸能の写真もお楽しみください。

監修者のことば

武藤美也子

沖縄は1972年に本土復帰をした。沖縄祭祀研究会による祭祀調査開始時の1978年には、本土復帰後ではあるがまだ沖縄独自の文化が残っており、村々では、特に離島においては、これまで通りの祭祀が続けられていた。

しかし、本土との交流ならびに共同体の消滅は徐々に進み、祭祀は本来の姿の変容を余儀なくされ、形態の小規模化、観光化、そして消滅への道を辿り始めた。研究会の調査は、本土化によって失われていく祭祀の姿を記録するべく行われた。

今回の写真展では、昔と今の写真を見比べることで、視覚から時代の流れを感じていただきたい。なお、祭祀の意義や変容についての調査報告は、別に成果をまとめているので、興味をお持ちのかたは手に取っていただければ幸いである。

(神戸女子短期大学名誉教授、沖縄祭祀研究会会員)

展示写真解説 （*祭祀の番号は展示順）

〔沖縄本島およびその周辺〕

1. 島直シ (シマノーシ)

渡名喜島で、隔年に行われる祭。旧暦の5月1日に、「ノーイガミ」と呼ばれる神送りの儀礼が行われ、その四日前から島直シの祭祀は始まる。祭祀は村にある四つの殿（トウシ 拝所）で一日ずつ行われる。豊作・豊漁・航海安全・健康などを祈願する祭である。

渡名喜島 島直シ① 1979年（旧暦4月29日） ニシバラ殿での退出儀礼

来訪神のギレーミチャンは二本の竹の間を通り、退出する（航海の模擬儀礼）。

渡名喜島 島直シ② 1979年（旧暦5月1日） 神送りの儀礼

東方海上に帰っていく神をノーイガミノウムイ（神送りの神歌）を唱和し、別れを惜しむ神女たち。

渡名喜島 島直シ③ 2017年〔追跡調査〕 ニシバラ殿の退出儀礼

鋼管パイプで設置された船縁。1979年には船縁を模していた2本の竹竿が、パイプで作られ、祭り日以外でも設置されたままになっている。本来は祭りで使われるものはその都度新調され更新されるべきものである。

渡名喜島 島直シ④ 2017年〔追跡調査〕 神送りの儀礼

ノーイガミのウムイを謡う神女たち。1979年には、東の海に向かい、帰っていく神との別れを惜しむように哀切に謡われていたものが、歌詞を見ながらのたどたどしい謡いになっている。

2. イザイホー

久高島で12年に一度、午年の旧暦11月15日から四日間行われる祭。久高生まれで既婚の30歳から41歳までの女性が、おのおのの祖先の霊威を受け、神女としての資格を得るための儀式（認証儀礼）である。*沖縄祭祀研究会が調査を行った1978年を最後に、この祭は途絶えている。

久高島 イザイホー① 1978年（旧暦11月15日） ユクネーガミアシビ（夕神遊び） 七つ橋渡り

俗界と聖界を繋ぐ最初の重要な儀礼。この橋を渡り終えることで聖界での籠りに入る。

久高島 イザイホー② 1978年（旧暦11月18日） 各戸廻りに出発するナンチュ

神女となったナンチュは美しく着飾ってエケリ（男兄弟）のオナリ神となる。

3. シヌグ

収穫が終わり、新しい農作に移る前に行われる祭。その本質についてはまだ研究の余地が残されているが、古い時代の年越しの祭と見るのが穏当か。旧暦7月の亥の日に行われることが多い。

*沖縄祭祀データベースには、伊計島、伊是名島、伊平屋島の田名、本島の安田・備瀬・具志堅・辺名地のシヌグが収められている。

伊是名島 シヌグ① 1980年（旧暦7月18日） 各戸廻り

子供達は各家を裸足で駆け抜ける。これは払いの行事である

伊是名島 シヌグ② 1980年（旧暦7月18日） 勢理客の海岸でのシヌグムイの儀礼

ネズミの藁包みを海に流し、子供達は海を挟む2つの岩に分かれ、両方から掛け声を掛ける。

伊平屋島田名 シヌグ① 1984年（旧暦7月19日） 男の子の健康祈願の儀礼

ノロ殿内の祭壇に板香を立て、供え物をまつり拝礼する。その後、祖父と母親と男児が拝礼。ノロが男児を抱き、祭壇を見せ、あやしながら子供が健康になるように説く。

伊平屋島田名 シヌグ② 1984年（旧暦7月19日） 午後の儀礼

田名殿内にダナンサーと神衣裳のハンズナーが集合。ダナンサーが板香を立て、拝礼。ユヌシを捧げ、何か述べ、ウンサク（神酒）を飲む。ハンズナーもこれに倣う。

沖縄本島安田 シヌグ① 1985年（旧暦7月1日） ヤマヌブイの儀礼

メーバ（下山途中～ミムトマツの所）より太鼓を叩く者の先導で、神となった男達が一列になって下りてくる。この後女達に祓いを行う。

沖縄本島安田 シヌグ② 1985年（旧暦7月1日） ヤーハリコーの儀礼 アサギマー

神アサギの屋根に丸太をかけ声をかけながら激突させる（2度繰り返す）。神の進水式、あるいは材木の搬出の模擬と言われている。

伊計島 シヌグ① 1986年（旧暦6月27日） ヒージバンタでの儀礼

海を隔てた伊計城に向かっての拝み。神衣裳のクンジ（紺地）と呼ばれる緋の着物に白鉢巻（カミサージ）を着ける。

伊計島 シヌグ② 1986年（旧暦6月27日） ハルマーイの儀礼

シヌグドーからハルマーイ（ノハルマーイとも）に出発する。インナガーに至るまで2つの地点（特別名称はなし。ノロ地の脇と、更に行った道脇で卯の方角に向かって）で拝むノロと区長。

沖縄本島備瀬 シヌグ① 1992年（旧暦7月20日） ウフユミマー儀礼

ナガレミヤーで ウークイの旗を持つニガミ。

沖縄本島備瀬 シヌグ② 1992年（旧暦7月20日） ウフユミマー儀礼

ニガミは浜辺においてある丸木舟を七回押す動作をする（航海の野安全を祈る）。

沖縄本島具志堅 シヌグ① 1992年（旧暦7月19日）

神行事が行われる具志堅の神ハサーギ

沖縄本島具志堅 シヌグ② 1992年（旧暦7月25日）

ハサギミヤーでのシヌグ踊り（重要無形文化財）。

沖縄本島辺名地 シヌグ① 1994年（旧暦7月23日） ウスレーク儀礼

アサギウルンで人々のお供えと泡盛、板香を供え、ノロは健康や商売繁盛を祈願。

沖縄本島辺名地 シヌグ② 1994年（旧暦7月23日） ウスレーク儀礼

アサギ庭でノロ、クンジの女性、女ジュリガーの19名が円陣になり、左廻りに踊る。

4. ウンジャミ

旧暦7月に、主に沖縄本島北部の地域で行われる祭。シヌグとならぶ来訪神（海神）を祀る行事である。シヌグと対のようにして考えられることが多い。

* 沖縄祭祀資料データベースには、伊平屋島の田名、本島の塩屋・安波・安田、古宇利島のウンジャミが収められている。

伊是名島 ウンジャミ① 1980年（旧暦7月17日）

モトジマで、伊是名ナーへのお通し（遥拝）をする。

伊是名島 ウンジャミ② 1980年（旧暦7月17日）

諸見・仲田のナーでのカー（井戸）への拝み。弓と矢が供えられている。

伊平屋島田名 ウンジャミ① 1984年（旧暦7月17日） ナートンチビ

浜を東に進み、アカシ（東石）と呼ばれる岩の上にハンズナー（神女）達は並ぶ。（この浜全体をア

カシ浜と呼ぶ。) 整列し、持ってきたオーを海に向かって投げる。

伊平屋島田名 ウンジャミ② 1984年(旧暦7月17日) 神送りの儀礼
ハンズナー達は東方に帰る神の航海の安全を祈りオーを海に投げる。その後、ダンジュカリユシを歌い踊る

伊平屋島田名 ウンジャミ③ 1984年(旧暦7月19日) 船漕ぎ儀礼
布で船の形を作り、海神が中に入って航海の模擬を行う。豊穰をニライカナイから受け取る模擬儀礼をする。

伊平屋島田名 ウンジャミ④ 1985年(旧暦7月19日) 馬行列
神女たちはマジキナハンタから神送りを行うナートンチビまで、各門中の馬に乗り移動。

沖縄本島塩屋 ウンジャミ① 1984年(旧暦7月25日) ハーリー船儀礼
20人乗りの Gumbari、40人乗りの Ufbari が、屋古のフルガンサーをスタートし、塩屋のシナバまで約700メートルの距離を競い合う。氣勢を揚げる出発地点の男たち

沖縄本島塩屋 ウンジャミ② 1984年(旧暦7月25日) ナガレの儀礼
神女達が村を通過することにより、村に霊力が授けられる。籠に乗った神女の行列はハーリー神と合流してそのままナガレバマへ移動する。

沖縄本島塩屋 ウンジャミ③ 2011年〔追跡調査〕 ハーリー神を乗せたハーリー競争
見どころの多い塩屋の祭りは観光化しており、沖縄国立博物館から見学ツアーが出るほどで、多くの観光客が見守る中で行われる。

沖縄本島安波 ウンジャミ① 1986年(旧暦7月6日) インコー儀礼
神遊びの儀礼である。アサギナー東端の棒を組んだ長椅子の周囲を、インコー神がインコー棒を突きながら4周する。これを2回繰り返す(一度目は槍で猪を突く動作、二度目はモリで魚を突く所作)。

沖縄本島安波 ウンジャミ② 1986年(旧暦7月6日) ユートエの儀礼
アサギの前に網が置かれ、その三方を男性が持つ。魚役の9人がアサギナーで左回りに3周走り、網の中に飛び込んで捕まえられる。

沖縄本島安田 ウンジャミ① 1986年(旧暦7月6日) ユートエの儀礼
アサギマーに広げられた網の周囲を6人の男性が持つ。男神のウミシル役がチャギ(細い棒)を持って、魚役(子供九人)を追いかけ、アサギマーを右回りに3周する。4周目で網が引き上げられる。追い込み漁の模擬儀礼。

沖縄本島安田 ウンジャミ② 1986年(旧暦7月6日) ヤマシトエの儀礼
アサギマーの砂場で、猪役の男が畑を荒らす所作をし、神女とニーブ神が仕留める。

古宇利島 ウンジャミ① 1989年(旧暦7月18日) アシャギでの儀礼
サンナム(ノロの世話役)が弓(ヌミ)の一本の先にモチを結びつけ、それを高く掲げて持つ。神人がヌミを使ってそのモチをはたき落とす。

古宇利島 ウンジャミ② 1989年(旧暦7月18日) シチャバヤーでの儀礼
シチャバヤーのスナマーで、ヌミトウイ神三人は、神遊びを行う。

沖縄本島塩屋 ウンジャミ① 1989年(旧暦7月18日) 屋古アサギにてアサギ儀礼
神ウスイ(セジ=霊力付け)を行う神女達。

沖縄本島塩屋 ウンジャミ② 1989年(旧暦7月18日) ナガレバマでの儀式
ヤイを手にして海に突っ込むシマンホー。イルカを突く模擬をする。

沖縄本島塩屋 ウンジャミ③ 2011年〔追跡調査〕 屋古アサギでのカミウスイ儀礼
薄などの神聖な植物の束を持ったノロが霊力を更新する。1989年には地面に座っていたノロが、老化による脚の不調で椅子に座っている。観光化されてはいるが、重要な儀礼は行われている。

5. ヤカンウユミ

栗国島で、旧暦の6月に三日間にわたって行われる、栗国の年中最大の祭。現在は島の繁栄祈願と村人の健康祈願・子孫繁栄を祈る祭となっているが、元々は荒ぶる神を慰撫するための祭であったと考えられる。スイミチ神という来訪神を村に迎え、五つの殿（拝所）を巡ることにより、村に豊穰をいただくという。

栗国島 ヤカンウユミ① 1985年（旧暦6月26日） 朝フララ
ノロ神に向かい、奏詞者がウンヌキゴト（奏詞）を唱える。

栗国島 ヤカンウユミ② 1985年（旧暦6月26日）
八重大中の庭（ナー）で繰り広げられる来訪神（スイミチ神）と土地神（ノロ神）の謡と踊り。

栗国島 ヤカンウユミ③ 1985年（上）（旧暦6月24日）／2016年（下）〔追跡調査〕 神迎え
1985年には神迎えをする場所タレラムイの50メートル四方に近づくことを許されなかったが、今回はすぐ近くで見ることができた。神聖さが薄れてきている様子が見える。

6. サーザーウェー

古宇利島で旧暦6月に四日間にわたって行われる祭。前半二日間は豊饒感謝祭ともいわれ、後半の独特な祭祀を指す名称でもある。各戸廻り（築三年以内）や海豚捕獲漁の模擬儀礼（ピロシー）が行われる。語源も未詳。沖縄祭祀研究会では、島全体の灵力を再生するような重要な趣旨を持った祭と考えている。

古宇利島 サーザーウェー① 1988年（旧暦6月26日） ユーニゲー
中央に供え物のタコが吊り下げられており、その周りを左回りに謡って踊る。

古宇利島 サーザーウェー② 1988年（旧暦6月25日） ピロシー
ゴザにくるまったピトウ（海豚）を神人が銚で仕留める。

7. ウプウイミ

ウイミは、旧暦日の単元をさす沖縄方言で、オリメ（折目）ともシチビー（節日）ともいう。最大のウイミをウプウイミ（大折目）といい、6月下弦の月頃の収穫感謝の神事がこれにあたる。各地でハーリー船競漕や、村を二分しての綱引きなどが行われる。ウンジャミに類する行事で、地方によって「海神祭」「稲大祭」とも言う。

沖縄本島今泊 ウプウイミ① 1995年（旧暦8月24日） ウーニフジ儀礼
今帰仁城の正門である平郎門の前。ノロとカネノロは平郎門の前で杖で地面に弧を3回描き、3回おじぎをして、拝む。

沖縄本島今泊 ウプウイミ② 1995年（旧暦8月24日） グシクウイミ儀礼
ノロは今帰仁城内の拝所を順に拝む。カラウカー、今帰仁里主所火の神、今帰仁のカナヒヤブ、ソイツギの順。

〔宮古島群島・八重山諸島〕

8. 豊年祭

八重山諸島で旧暦6月に収穫儀礼として行われる祭。プーリィ。おおむね二日間で、今年の収穫へ

の感謝と来年の豊作予祝の二部構成をとる。一日目は御嶽での祈願をする「御嶽プーリィ」、二日目は村をあげて予祝儀礼を行う「村プーリィ」である。

* 沖縄祭祀資料データベースには、石垣島の川平・四箇・大浜・白保、西表島の祖納、宮古島の新里の豊年祭が収められている。

石垣島四箇 豊年祭① 1981年(旧暦6月23日) マイツバオンでのミシャグパーシィ
謡を伴う神酒献上の儀礼。司と給仕役が対座して行われる。

石垣島四箇 豊年祭② 1981年(旧暦6月23日) 村プーリ ナークスオンでの儀礼
「稲の一生」を模した奉納行列。

石垣島四箇 豊年祭① 1982年(旧暦6月22日) ウシャギオンでの儀礼
オンヤーでの司の占い。

石垣島四箇 豊年祭② 1982年(旧暦6月22日)
マイツバオンへの奉納行列。

石垣島大浜 豊年祭① 1982年(旧暦6月21日) オンプーリ 夜の儀礼 東節のユークイ
豊穰を乞う儀礼で、オンの庭で神人氏人全員が参加する。ドラと太鼓の伴奏あり。全員拝殿の方へ向かって並び、女たちは右足を一步踏み出して両手を前に伸ばし、掌を上に向けてヒラヒラさせ何かを呼び込むような振りをする。

石垣島大浜 豊年祭② 1982年(旧暦6月22日) 村プーリ カースンニャー(竜宮)での儀礼
全員で海に向かい東節のユークイを行う。

石垣島白保 豊年祭① 1982年(旧暦6月11日) エンヌーニゲー
豊年祈願祝典。カタバルオンの前の道路でミルク行列。

石垣島白保 豊年祭② 1982年(旧暦6月11日) エンヌーニゲー 各オンでの儀礼
巻踊り。

石垣島川平 豊年祭① 1983年(旧暦6月14日) ブバナアギ 宮島オンでのビッチュル担ぎ
米俵に見立てたビッチュル(約60kgの石)に供え物をして祈りを捧げた後、イビの広場の中央まで転がして、縦長に据える。

石垣島川平 豊年祭② 1983年(旧暦6月14日) ミシャグアギ
神酒献上。女性二人の給仕が、司、ティナラビーと対座してミシミシャグを謡う。

石垣島白保 豊年祭① 1983年(旧暦6月15日) バンプトゥギ(願解き) アスコオンでの儀礼
お供えの中心はマーガリスー

石垣島白保 豊年祭② 1983年(旧暦6月16日) ブーパーリン
司とティナラビがニガイ酒アヨーを謡う。

石垣島四箇 豊年祭① 1983年(旧暦6月16日) ユーヌシュビ マイツバオン
司が、ブンノスーを中心とした供物の準備をする。

石垣島四箇 豊年祭② 1983年(旧暦6月16日) ナークスオン 供え物の祈り
ブンノスーを供えて拝殿での拝礼

石垣島川平 豊年祭① 1986年(旧暦6月22日) 宮島オンでのビッチュルの儀礼
ビッチュルを男性が、拝みの後に担ぎ上げて広場を奇数回まわる。

石垣島川平 豊年祭② 1986年(旧暦6月22日) 朝願い
宮島オンでの拝礼。司達がウブ中に見える。中に入れない男達はウブの前で拝礼(大拝と三三拝)。

西表島祖納 豊年祭① 1986年(旧暦6月22日) プーリヨイ(豊年祭)

クシムリ御嶽での司とチヂィビへの神酒献上の様子。司とチヂィビは兄妹の関係で、オナリ神信仰が具現化されている。

西表島祖納 豊年祭② 1986年：(旧暦6月23日) 綱引き儀礼
大綱引きが行われる前に、五穀種子奉納と棒術が披露される。

宮古島新里 豊年祭① 1993年(旧暦6月9日) 綱引き ウプザー
雌綱と雄綱が結合される。

宮古島新里 豊年祭② 1993年(旧暦6月9日) 綱引き ウプザー
東西に別れ綱引き開始。

西表島祖納 豊年祭① 1996年(旧暦7月23日) プーリヨイ ウブ御嶽
カザリバでチヂィビが三十三拝をする。

西表島祖納 豊年祭② 1996年(旧暦7月23日) 綱引き儀礼
綱引きの準備、綱作り。

9. ムシャーマ

はてるま
波照間島で旧盆の期間に行われる豊年祭と盆行事が合体した祭をソーロン行事と呼び、中でも旧暦7月14日に行われる祭をムシャーマという(一連のソーロン行事を指す名称としても使われる)。14日のムシャーマでは、福運・繁栄を願って歌・踊り・獅子舞・仮装行列などが終日行われる。

波照間島 ムシャーマ① 1991年(旧暦7月14日) ムシャーマ
帰りの仮装行列。

波照間島 ムシャーマ② 1991年(旧暦7月15日) ウグリピン
アンガマ(あの世からの使者)達は、訪れた家で接待を受ける。

10. 結願祭

キツィガン
八重山諸島の村々で旧暦8月ごろに行われる祭祀。豊作感謝祭。年間の祈願を占めくくって願を解くという意味もあり、文献には「結願(祭)」と漢字で表記されることが多い。1年に一度行われるほかに、数年に一度、12年に一度という村もあり、中にはこの祭祀が行われない村もある。キツィガンが特に盛大なのは、石垣島川平、小浜島などである。

石垣島川平 結願祭① 1998年(旧暦10月2日) 朝願儀礼 群星御嶽での拝礼
司はイビの中に入り拝み、その間、男性たちは外で控える。

石垣島川平 結願祭② 1998年(旧暦10月2日) 浜崎御嶽での朝参り儀礼
拝礼を終えた司は、供物を下げる。

11. スツウブナカ

たらま
多良間島で、旧暦4～5月の壬辰、癸巳の日に行われる祭。その年の実りの感謝と祈願を主とした祭である。男性が中心となり、祭場も御嶽ではないという点が、他の豊年祭と異なる。現在は司ツカサ(司祭者)が四つの祭場を巡行していくかたちで行われるが、かつて女性は参加できなかったという。

多良間島 スツウブナカ① 1987年(旧暦6月14日) ミスペースの儀礼
2日目のナガシガー祭場で司を迎えて行われる。

多良間島 スツウブナカ② 1987年（旧暦6月14日）

2日目のパイドニ祭場で司を迎えての儀礼。

12. ^{シテイ}節祭

^{そない ほしだて}
西表島の祖納と干立で旧暦の8～9月に行われる。新年を迎えこの年の平安・豊穰を祈る、年中行事最大の祭。一日目のトシヌユは大晦日に、二日目は新年にあたり、健康と豊穰を祈る神遊び儀礼（ユークイ）と、ハーリー船競漕や獅子舞なども行われる。三日目は井泉ウヒラカーに対する感謝儀礼が行われる。

西表島祖納 節祭① 1990年（旧暦10月15日） ユークイ

船元の御座（前泊の浜）に婦人アンガマ入場。

西表島祖納 節祭② 1990年（旧暦10月15日） ユークイ

船元の御座（前泊の浜）での獅子舞。

西表島祖納 節祭③ 2014年〔追跡調査〕 新調された神具一式

この祭りは1991年に国の重要無形民俗文化財に指定された。その後観光客も増えて財政的にも潤い、神具が新調された

西表島祖納 節祭④〔追跡調査〕 2014年

船元の御座で行われる奉納芸能を見守るためにサンシキに集う司（ノロ）たち。他の多くの地域ではノロの後継者が激減している現状だが、祖納では、前回1990年の調査時には居なかった若いノロが複数名が新しく加わっていた。このような現象は、注目される祭りゆえのことだろう。

